

指導計画（全8時間予定）

過程	時間	ねらい	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評価項目(方法)
ふ れ る	1	様々な表現形態について、そのよさをつかむことができる。	朗読のCD、劇のビデオ、紙芝居などを聞いたり見たりして、それぞれの表現形態の特徴をつかむ。 それぞれの表現形態のよいところをつかむ。	朗読のCD、劇のビデオ、紙芝居などを、表現形態の特徴をつかみやすくするために分かりやすいものを用意する。 それぞれの表現形態のよいところを中心にまとめるためのワークシートを用意し、机間指導しながら個別に支援する。	それぞれの表現形態のよいところをワークシートにまとめようとしている。〔観察・発言・ワークシートの記述〕
	2	本文を読み、自分の印象に残った場面を見つけ、その場면을相手に分かりやすく伝えるための表現形態を決めることができる。	本文を読み、自分の最も印象に残った場面を見つける。 同じ場面を選んだ人と班を作る。 それぞれの班で、選んだ場면을相手に一番分かりやすく伝えるには、どの表現形態が適しているか、前時の活動を思い出しながら決定する。	読みの時間を十分に取って、段落を単位にして場面分けをするよう支援する。 また、少しでも場面が重なるところがあった児童同士で班を作ることを伝え、安心して場面分けができるようにする。 前時の活動を生かせるよう、それぞれの表現形態のよい所をまとめて掲示する。 話・聞班の合いがスムーズに進むよう、また、児童が自信をもって発表できるよう、話合いのきまりを提示し、机間指導しながら発表した意見を意図的に褒める。	自分の印象に残ったところを、見つけようとしている。〔観察〕
	3	児童独自の台本の、地の文を書き写すことができる。	自分で表現する場面について、行間を大きく空けた台本の地の文を書き写す。 書けた場面について、何度も読む。	時間を十分に取って、ていねいに書くように、机間指導しながら支援する。 次時に表現をどのようにすればいいか考えることを予告し、そのことを頭に置きながら読むように話す。	ていねいに書こうとしている。〔観察・ノートの記述〕
つ か む	4	《見通し1》 自分が考えたこと・感じたことを台本に書き足すために、情景を想像したり、登場人物の心の動きを考えるための言葉を見つけられる。	自分が選んだ表現形態を思い出しながら、自分の台本をもう一度ゆっくりと読む。 情景や登場人物の心の動きが分かることばに印を付け、どんなことが分かるか台本に書き込んでいく。	今日の学習がよい発表をするための核になることを確認する。また、児童が台本を集中して読めるよう、話し合いでは根拠をあげながら必ず一つは発表することを約束しておく。 表現形態ごとの印の付け方や書き込み方を説明し、掲示する。それをもとに児童がすぐに理解できるように説明する。また、適宜発表形態ごとに班別に支援する。	台本に自分が考えたことを書いている。〔観察・ノートの記述〕
		《見通し2》 意見交換から自分が気付いたことを台本	自分の台本を机上におき、台本を読み返す。 自分の作った台本とほかの児童が作った台本	自分の台本を、自信をもって発表できるよう、机間巡視をていねいに行いながら全員をほめる。 効果的な話合いができるよう、話合	自分の意見を根拠をあげて発言している。〔観察〕

深 め る	5	に書き足し、自分で読み取ったことをもう一度考え、	を、見比べるために班を作る。	いの仕方を説明する。また、自分の意見を言う時は、どうしてそう読み取ったかという根拠をあげることを伝え、自信をもってできるよう各班に行つて励ます。	
	6	たくさんの言葉から、情景や登場人物の心の動きを詳しく考えられる。	一つ一つの動作についてどのように発表するか、意見交換する。	読ほかの児童の意見についてどう考えるか、場面の読み直しをするように伝え、班の活動を確かめながら支援する。	
表 現 す る	7	各班で発表会に向けて練習できる。	発表会に向けて、班ごとに集まり、練習する。	関台本をよく見て、班で協力して練習するよう支援し、第1時に扱った題材を見ながら参考にしよう薦める。 話発表会に向けて、大きな声でできるよう、発声の仕方を気付かせる。	関班で協力して練習している。〔観察〕
	8	発表会をして、鑑賞できる。	堂々と発表する。鑑賞カードを使い、どこがよかったか、どこを改善したらよいかなど、観点別に鑑賞する。	関台本をもとに、発表するように、もう一度台本を見て気持ちを落ち着かせるよう話す。 関観点別に鑑賞するよう、鑑賞カードの使い方を理解できるよう話す。	関台本をもとに発表している。〔観察〕 関観点別に鑑賞している。〔鑑賞カード〕

学習指導案（第4時展開案）

（1）ねらい

自分が考えたこと・感じたことを台本に書き足すために、情景を想像したり、登場人物の心の動きを考えるための言葉を見つけられる。

（2）準備

教科書、台本、国語辞典

（3）展開

学 習 活 動	時間	学 習 へ の 支 援	評 価 規 準
本時の目標と学習の進め方について聞く。 自分が行う表現形態を思い出しながら、自分の台本をもう一度ゆっくりと読む。	10	本時の学習がよい発表をするための核になることを確認し、本時に何をすればいいか、しっかりつかめるよう、情景を想像したり、登場人物の心の動きを考えるための言葉を探していくことを話す。また、児童が台本を集中して読めるよう、話し合いでは根拠をあげな	読自分で選んだ場面を確認しながら自分の台本を読んでいる。 〔観察〕 (努力を要する状況)への方策 ・読みの進まない児童に対しては、児童と教師が一緒に読むという形態を取りながら、集中して読めるようにする。

<p>情景や登場人物の心の動きが分かることばに印を付け、どんなことが分かるか台本に書き込んでいく。</p>	<p>23</p>	<p>がら必ず一つは発表することを約束する。 表現形態ごとの印の付け方や書き込み方を説明する。それをもとに児童がすぐに理解できるよう、説明する。また、選んだ発表形態ごとに書き込み方を支援する。</p>	<p>☑台本に自分が考えたことを書いている。〔観察・ノートの記事〕</p> <p>(十分満足)とする状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を分かりやすく示しながら、印や気が付いたことを不足なく書いている。 					
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="239 519 654 678"> <ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ゆっくり読むところ 弱く読むところ その他(どう読むか書いておく) </td> <td data-bbox="654 519 1024 678"> <ul style="list-style-type: none"> 強く読むところ 方言など特徴的なところ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="239 678 654 837"> <ul style="list-style-type: none"> ・群読 一人で強く読むところ 二人で強く読むところ みんなで強く読むところ </td> <td data-bbox="654 678 1024 837"> <ul style="list-style-type: none"> 弱く読むところ 繰り返して読むところ </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="239 837 1024 996"> <ul style="list-style-type: none"> ・劇 手がかりとなる言葉(どのように演技すればいいか) ・紙芝居 どの場面を絵にすればいいか(相手に伝わるか) </td> </tr> </table>		<ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ゆっくり読むところ 弱く読むところ その他(どう読むか書いておく) 	<ul style="list-style-type: none"> 強く読むところ 方言など特徴的なところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・群読 一人で強く読むところ 二人で強く読むところ みんなで強く読むところ 	<ul style="list-style-type: none"> 弱く読むところ 繰り返して読むところ 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇 手がかりとなる言葉(どのように演技すればいいか) ・紙芝居 どの場面を絵にすればいいか(相手に伝わるか) 		<p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全く印や根拠の書けない児童に対しては、分かりやすい言葉について一緒に考え、印や根拠が書けるよう支援する。また、書けたところを意図的に評価し、自信をもたせ、書けるようにする。 ・印が付けられても、根拠が曖昧な児童に対しては、実際に表現してみた印象を台本に書いておくよう助言する。 ・印・根拠が書けても、もう少し考えればまだ書けるといいう児童に対しては、書けていないところを指摘し、考えよう促す。
<ul style="list-style-type: none"> ・朗読 ゆっくり読むところ 弱く読むところ その他(どう読むか書いておく) 	<ul style="list-style-type: none"> 強く読むところ 方言など特徴的なところ 							
<ul style="list-style-type: none"> ・群読 一人で強く読むところ 二人で強く読むところ みんなで強く読むところ 	<ul style="list-style-type: none"> 弱く読むところ 繰り返して読むところ 							
<ul style="list-style-type: none"> ・劇 手がかりとなる言葉(どのように演技すればいいか) ・紙芝居 どの場面を絵にすればいいか(相手に伝わるか) 								
<p>ノートを提出し、今日の学習を振り返る。</p>	<p>10</p>	<p>早く終わってしまったという児童が出るのが予想されるので、ていねいに課題に取り組めるよう、次時の話し合いが円滑に進むように、根拠を分かりやすく台本に書いておくことを伝える。</p>	<p>☑次時の学習への意欲をもつ。</p> <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習に対して、意図的に評価し、自信をもたせながら、次時への意欲につなげる。 					
<p>次時の学習の進め方を知る。</p>	<p>2</p>	<p>本時の学習に充実感をもたせ、次時の学習に意欲をもてるよう、全員のノートを評価する。</p> <p>次時の学習の進め方が児童によく分かるよう、「友達の台本・自分の台本をもっとよくする時間」だということ伝え、やる気を高める。</p>	<p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習に対して、意図的に評価し、自信をもたせながら、次時への意欲につなげる。 					

学習指導案(第5・6時展開案)

(1) ねらい

意見交換から自分が気付いたことを台本に書き足し、自分で読み取ったことをもう一度考え、たくさんの言葉から、情景や登場人物の心の動きを詳しく考えられる。

(2) 準備

(3) 展開

学 習 活 動	時間	学 習 へ の 支 援	評 価 規 準
本時の目標と学習の進め方について聞く。	2	本時の学習は、「友達の台本・自分の台本をもっとよくする時間」だということを伝え、友達の考えを認めていく時間であることを説明する。	<p>関 台本をとじて話を聞き、本時への意欲を高めている。〔観察〕</p> <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の一部を発表するよう促し、それを意図的に評価し、頑張って作った自分の台本を、もっとよい台本にすることを伝える。
自分で印を付けたところや気付いたことを書き込んだことに注意しながら自分の台本をもう一度ゆっくりと読む。	5	自分の台本に自信をもって発表できるよう、机間巡視をていねいに行いながら全員をほめる。	<p>読 自分の台本を読み返している。〔観察〕</p> <p>(十分満足)とする状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印や書き込んだことに気をつけながら読んでいる。 <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みの進まない児童には、印や書き込んだことを教師が実際に読んだり、見せたりしながら、後に続いて読むよう支援する。 ・印や書き込んだことに気をつけながら読まない児童には、印や書き込んだことを最大限にほめて、学習の意欲を高め、読みに集中できるようにする。
自分が作った台本とほかの児童が作った台本を見比べ、意見交換するための班を作る。	3	効果的な話し合いができるよう、話し合いの仕方を説明する。また、自分の意見を言う時は、どうしてそう読み取ったかという根拠をあげて伝えることを伝え、自信をもってできるよう各班に行き届かす。	<p>話・聞 自分の意見を根拠をあげて発言している。また、他の子の意見を聞き、自分の考えと比べている。〔観察〕</p> <p>(十分満足)とする状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、根拠を分かりやすく説明しながら発表している。
一つ一つの動作についてどのように発表するか、お互いの意見を交換する。	30	ほかの児童の意見についてどう考えるか、自分の意見にこだわり、ほかの子を責めることがないよう、場面の読み直しをするように伝え、班の活動を確かめながら支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの児童の意見を認め、自分の台本を読み直している。 <p>(努力を要する状況)への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見や根拠を発表しない児童には、教師の質問に答えるという形式を取りながら、発表するよう促す。

<p>1, 司会者が一文を読み、この文につけた印、気付いたところを、順番に根拠をあげて発表させる。</p> <p>2, 一通り意見が出たら、意見の違いについて、根拠を考え直す。</p> <p>3, みんなで実際に表現してみる。</p> <p>4, 台本の手直しを行う際、色ペンを使う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や根拠に自信のもてない児童には、教師が傍らで励ましなが意見を発表するよう促す。 ・自分の意見にこだわり、人の意見を聞けない児童には、話合いのルールに従って意見を言うよう指導する。 ・自分の意見にこだわり、人の意見を認めない児童には、実際に表現してみてどちらが効果的か確かめながら、話合いを進めるよう支援する。 		
<p>ほかの児童からの意見で参考になったものは、自分の台本に書き足していく。</p>	<p>23</p>	<p>ほかの児童の意見について参考になったものは自分の台本に書き足していくよう伝え、後で分かりやすくなるよう色ペンを使うように助言する。</p>	<p>☑自分の台本にほかの児童の意見を探り入れて、書き足している。 〔観察・ノートの記述〕 (十分満足)とする状況</p>
<p>班でどのように表現するか決める。</p>	<p>15</p>	<p>たくさんの子が意見を言えるよう、班の全員の子が実際に表現するように話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を書き、自分の選んだ表現がしやすいように書いている。 (努力を要する状況)への方策 ・台本に書き足せないでいる子には、司会者を中心に班の子全員で教え合いをするよう促す。
<p>ノートを提出し、今日の学習を振り返る。</p>	<p>10</p>	<p>本時の学習に充実感をもたせ、次時の学習に意欲をもたせるよう、全員のノート进行评估する。</p>	<p>関次時の学習への意欲をもつ。 (努力を要する状況)への方策</p>
<p>次時の学習の進め方を知る。</p>	<p>2</p>	<p>次時の学習の進め方が児童によく分かるよう、表現の練習の手順について説明しやる気を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習に対して、意図的に評価し、自信をもたせながら、次時への意欲につなげる。